

第24回全国部落史研究大会 オプションの概要

オプション①「芝浦と場、DVD視聴と講演」高城順（部落解放同盟品川支部）

一九九五年、三七歳のときに「芝浦と場」に就職し、ずっと牛の解体に携わっている。解放運動と組合運動の両方に取り組んできた。芝浦と場には「お肉の情報館」があり、フィールド・ワークや研修・視察を受け入れている。小学生、教師、行政、企業など、全国からやってくる。ただ見学するだけではなく、と場で働く労働者（全芝浦屠場労働組合）との懇談の機会をもつようにしている。この懇談は、現代におけると畜と私たちの生活を捉え返し、部落差別をなくすうえで、大切な役割を果たしている。また、小学校や高校・大学などから招かれて、と場の授業も行っている。子どもは大人とちがって単純に考える。肉を食べないと困る、ランドセルやサッカーボールを使えないと困る、困るから必要なんだと理解が早い。と畜の仕事は特別なことではなく、当たり前の仕事なんだということを伝えるようにしている。

オプション②“皮革と油脂の町「木下川」” フィールド・ワーク

墨田区の一隅に荒川と中川と中居堀が三方を囲む木下川地区がある。ピッグスキン（豚革）の生産のうち、全国の9割以上がこの地区でなめされている。おおよそ10社ほどのなめし業者のほか、油脂、飼料、肥料などの関連業者が集まり、日本一の豚革なめしの町である。木下川地区のフィールド・ワークは、皮革工場見学と産業・教育資料室きねがわでの説明、皮革づくりの映像、そして木下川の歴史と解放運動、差別事件などの説明で成り立っている。産業・教育資料室きねがわの開設は2003年3月をもって廃校となった旧木下川小学校校舎の一部を使ってつくられた。10年後、旧木下川小のすぐそばの東墨田会館に移転し、現在この会館の中にある。毎年、教育関係者、児童・生徒、行政、企業、宗教団体、労組、市民団体など年間2500人前後の人がフィールドワークに来ている。